

私の所感

—『幼児の教育』— 〇〇巻にちなんで—

堀合 文子

“幼児の教育”は私にとっては大事な大事な本です。これは保育者になってからずっとです。

幼児の教育は変わりましたね。四十余年、五十余年の間に。社会が、世界が、そしてお子さんも、すべて変わりました。で、“幼児の教育”と言う一、月刊教育誌が変わるのは当然だと思

いますし、又幼児のためにも社会のためにも変わるべきでしょう。これは一つの“理”でさけられないものでもあります。唯私は立派に、進歩し変化するものだと思ひ込んで、保育者のために増々必要な月刊誌となるものだと思っておりました。昔の“幼児の教育”を読みかえしてみましたか。時代が時代とは言え一年一年を少

しずつ保育者には何の役にも立たないものになってしまい残念です。

昔の月刊誌のスタッフを見ると、倉橋惣三先生自ら第一頁に毎月書かれ、今読んでも、一言一言学ぶものをいただく文から始まり、後文も保育界の重鎮が毎月いろいろと書いて下さっております。あの薄い月刊誌も内容は重い重いものでしたが次第に軽くなったようです。いつの頃より私共保育者にはあまり興味の薄いものになってしまい残念です。これもいろいろの理由がある事はよくわかりますが、唯残念の一言です。これも社会の波にのつたのでしょうか。

一方、「幼児の教育」に危機が来ていると同じように幼児教育の世界にも危機が来てしまいましたね。お子さんと毎日、ああでもないこうでもないと夢中に過していると一年はあつと言う間に、数年もすぐ経ってしまいます。

お子さんが変わったわ、どうしたらよいかしら等々毎日の様に頭を悩まし、でもこれであったのだとお子さんの様子から喜んでみたり……。

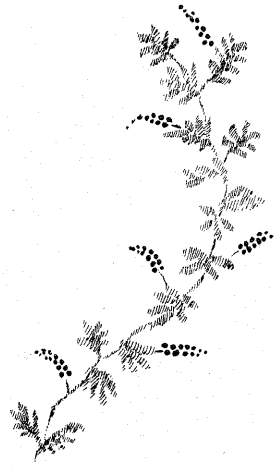
はつと気がついた時は世の中の幼児教育界はどうなってしまったのでしょうか。

今は眠っているのでしょうか。種々の先生方はどこへいらしてしまつたのかしらと思う程、幼児教育論は交わされなくなつてしまつたようです。で実践家は困つてしまつたのでしょうか。幼児の世界には明治時代に行われていたような事々々が、幼児の世界に持込まれたり、唯、保護者の希望のみ取入れ、時間を延長したり、お子さんがどのようになっているのかは考えないで、種々と実



行してしまうのは時代の変化の一つとして表われてきています。少子化が原点にある事はこれもよくわかります。しかし、この時こそ、幼稚園教育にたずさわっている人々は、もう一度幼児の立場に立ち種々と細やかに一つ一つ考えて行動に移さなければいけないのではないのでしょうか。そして今こそ、幼児を立派に育てておかなければならない時なのではないでしょうか。

幼児教育は幼稚園と言う一つの経営の中で行なわれているので種々の問題が出てくる事は当然ですが、人間一生の中で一番大事な時代の教育は思いつきや、表面だけみたり、唯社会の状況を考えてみたりだけではすまされないと思います。幼児はまだまだ私共のはかりしれない面を種々の所を持っており、大人が理解したり、解釈したり出来ない所を一杯持っております。



特に現代の幼児は複雑と思います。深い深いものを持っており、保育者以上の能力を持っているようです。幼児は幼児の世界から保育者を見、今はこうした方がよい、この先生にはこうしておけばよい、と幼児と保育者があべこべになってしまった所も感じられます。

こんな現代の幼児に対する幼児教育はどうあつたらよいのでしょうか。若い先生（保育者）方が沢山いらつしやりたのもしい事ですがそれを指導される各社会（学校、就職先、社会）があまりにも浅く、理論のみで過ぎたり、技術だけ

で過ぎたりで、何か幼児の現場が考えてもらえず、若い保育者方がその上につけて幼児教育はこういうものとして信じて過しております。

現場は前述のように「手あそび」「技巧」「などなどお子さんの考えとはおよそかけはなれた時代のものが平気で往行し、私もびっくりしている一人です。お子さんもびっくりしているでしょう。

幼児教育の形態はどうであろうが、「お子さんの生まれ持っている能力を引き出してあげ、それを使って活動できるように」。これは幼児教育の原点である事は言うまでもなく、保育者は頭では知っているでしょう。が知っているだけではだめなのは保育者なのですがこれが出てこないのが現代の幼児教育のようですね。お子さんと同じで保育者も現代随分と変わりました。これだけ種々と時代が流れた事がよくわか

ります。良い面も悪い面も一杯ありますが、なさけない面も一杯あります。

「お子さんはかわいいから」この気持は大切かもしれませんがそれだけでは幼児教育は出来ないし、保育者ではありません。

ここに現代は大きな間違いと、大きな穴が幼児教育の中にあいているのです。

若い保育者と言いますが、経験の多い方も種々と問題点があります。長くやれば、やる程、向上してゆくのが当然なのですが、幼児教育はむずかしいのですね。

「十年一日のごとし」の幼児教育をしていられるのが現状で、年数の上のつかって、自信がつき、自分は正しいとの確信と、「これはこの方が……」との注告は全然受け入れられず、理屈で納めてしまう。勉強はほとんどやらない、不思議とも思わず、次々とあらわれる幼児を昔の

まの教育にうまくはめてしまい悩む事は全然ありませんし、違っている事は全然気がつかず、自信たっぷりの毎日です。

これが日本の幼児教育界に一番、がんとなつていてのではないでしょうか。これは実践家だけでなく中堅の心理関係の方々も同じではないでしょうか。現場を大切にして下さりながら御自分の考えは絶対まげないのでお子さんを見る目も純心ではなくなってくるので大変大変こまりますね。

幼児教育界はどうなつてしまつたのでしょうか。

昔も同じだったかもしれませんが、まわりからの指導、例えば「幼児の教育」のような外廊のものがある程度の指示を与えてくださり、保育者に考えるチャンスを与えてくださつたと思っております。今は、同じように、それ以上



の数は周囲にあつても、保育者に考える力を出させてくれず、与えてはくれず。

お子さんと同じに、保育者も育たないでしょう。

こんなに日頃なげいている中で公の所は、又々種々お子さんと距離があり、幼児教育の本筋が見えなくなつたようなお話もあり、いくらか時代とは言つても幼児教育の本筋は公の所でこそあるべきなのにこの点も私等、古くなつたのでしょうか理解にくるしむ所があります。

*

「幼児の教育」に対する事々が道を間違つたようですが、私は「幼児の教育」の月刊誌の中味は即日本の幼児教育の象徴であると信じてきたし、そうであると今でも信じております。

それで、現代の幼児教育の世界は種々な方向に走っておりますが、幼児教育の本当の姿をとりにどせるよう「幼児の教育」が役かつていただきたいと思います。社会は種々と要求を持ち込むでしょうが、幼児教育は幼児教育の使命がちゃんとあるはずです。

それとはつきりと若い方に、経験者に、園長先生に教えてあげるような内容を考えていただきたいものです。

いつまでも「幼児の教育」は、幼稚園の幼児教育の現場の先生方が学べる月刊誌である事を心より願ひ望むものがございます。

「幼児の教育」を通じて日本の幼児教育が現代

の幼児を育てる唯一の道しるべとしてこれ以上発展するように心より願ひしております。

「幼児の教育」も現場の保育者と同じに幼児を常に見つめ、これからも見つめていっていただきたいと思ひます。

*

「幼児の教育」を昔々から考える時やはり連携して思ひるのは現在の日本の幼児教育の世界の方がいろいろ悩みが強かつたので、思ひぬ愚痴を言わせていただいた事おわびいたします。

どこまでも「幼児の教育」が、幼児教育の現場と密着であり指導者の一つである事を忘れな

いでいただくとうれしい事です。

(十文字幼稚園)